



クスリを多用すると。免疫力はこうなる

故 安保徹先生著「老けない人の免疫力」より

●ステロイド、血圧降下剤、抗癌剤と免疫力

現在の西洋医学で、もっとも広いシーンで活用されるクスリがステロイドです。このステロイドというクスリは、最強の抗炎症剤としてあらゆる場面で使用されています。ステロイドには活性酸素を無毒化して、細胞の酸化反応を一瞬にして食い止める力があり、大ケガをしたときや、やけどをしたときなど、救急救命医療には欠かせないクスリとして活躍しています。

また、そのおかげで多くの命が救われてきたことは、誰もが否定できない事実です。

こうしたことから、現代のステロイド信仰には非常に根深いものがあります。現行のステロイド投与量では炎症が食い止められなくなった場合は、さらに強いステロイド剤の投与が行われます。そして人間の身体がボロボロになっていくのです。

ステロイドは、交感神経を緊張させる非常に強力な作用を持っているため、使い続けると血圧が上がり、脈が乱れ、不安感が増したり腰痛といった関節痛を引き起こします。さらには血流障害を起こし、手足は氷のように冷たくなって体温の低下を導きます。

このほかにも、血圧降下剤や抗癌剤など、現在使われているクスリのほとんどは交感神経を刺激する作用をもっています。もちろんこらえきれない痛みや苦しみなど、本当に身体がつらいときに短期間使用するのは自律神経に悪影響を及ぼすものではありませんが、身体を休ませることなく、月単位年単位で使い続けた場合には、交感神経緊張はまぬがれず、著しい免疫力の低下を招きます。

そしてそこからどんどん体調が悪化していき、降圧剤や精神安定剤、さらには経口糖尿病薬、消炎鎮痛剤とクスリの上乗せをされた人は、クスリ漬けから逃れられなくなっていきます。

イスラエルの赤い宝石「ドナリエラ」愛の一粒運動実施中！！